

八芳園の庭園

幸せいっぱいの結婚式に出席した。第二の人生のスタートを飾るに相応しい祝宴であった。人間は生まれ結婚し子供を儲けそして死んでいく。それは太古の昔より変わることなく繰り返されてきた人類の歴史である。

結婚は当然のことながら二人が愛し合い、信頼の絆で結ばれることが一番だ。そして誰からも祝福される結婚であってほしい。私はこれまで20組の仲人をさせて頂いた榮譽に浴している。そして多くの友人、知人、親戚の結婚式にも出席した。更には4人の娘のうち3人を嫁がせている。どの結婚式も感動のドラマが繰り広げられる忘れ得ない人生の一頁を綴るものであった。



東京都港区白金台にある八芳園を訪ねたのは初めてであった。大名屋敷風の入口を潜ると、そこは素晴らしい庭園を有する別世界であった。滝が流れ池に注ぎ込み寒鯉は小さな橋の下で全く動かず群れていた。早咲きの桜に陽に照らされて梅が小さな花を咲かせ始めていた。そこへ一羽の鶯が早春を待ちかねたように、花の蜜を求めて枝に止まっていた。まるで絵に描いたような光景を目の当たりにした。暫し大都会の中にいることを忘れさせてくれた。

八芳園の歴史は古く江戸時代では「天下のご意見番」で有名な徳川将軍の旗本・大久保彦左衛門の屋敷でもあった。明治時代に入ってからには渋沢栄一の従兄弟・渋沢喜作の邸宅に。そして大正・昭和時代は実業家・久原房之助の邸宅に。1万2000坪を有する八芳園の名前は「四方八方何処から見ても美しい」ことから名付けられたとか。今はレストラン・結婚式場として利用されており、この日も16組の結婚式が執り行われていた。

撮影 2011年冬

